

東京まゆみ会会報

第35号 (令和5年8月)



《設立75周年》

まゆみの精神



強靱であれ その木の如く

しなやかであれ その枝の如く

清楚であれ その花の如く

誠実であれ その朱き実の如く

東京まゆみ会

目次

「東京まゆみ会設立75周年を迎えて」	東京まゆみ会会長 高橋 智章	2
「母校創立百周年を祝って」	安達高等学校同窓会会長 五輪 美智子	3
「ご挨拶」	安達高等学校校長 伊藤 勝宏	4
文部科学大臣賞受賞	会員 中根(旧姓 大塚) 瑠子(昭39)	5
デジタル社会への移り変わりを迎えて	会員 山崎 力(昭51)	6
「世界遺産」門前の小僧のよもやま話	会員 佐々木(旧姓 鳴原) ミナ(昭60)	8
コロナ禍での病院勤務く医療従事者としての思いく	会員 喜古 康博(昭60)	10
”我が人生” 悔いなし 此れからも!	会員 丹野 朝二(昭34)	12
会員近況報告	東京まゆみ会 会員	14
会則	東京まゆみ会 事務局	22
令和4年度年会費納入者ご氏名	東京まゆみ会 事務局	23
現在の役員体制	東京まゆみ会 事務局	24
会からのお願い	東京まゆみ会 事務局	24
編集後記	東京まゆみ会 会報編集委員会	24

【表紙の写真】東京まゆみ会旗



「東京まゆみ会設立75周年を 迎えて」

東京まゆみ会会長

高橋 智章（昭41卒）

東京まゆみ会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜びを申し上げます。

また、平素は「東京まゆみ会」の活動に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

令和5年5月20日に母校創立100周年祝賀の気運を盛り上げる安達高校同窓会総会が開催されました。数年前から同窓会、安達高校、PTAの3者による「100周年記念事業メモリアル基金」の募金活動を展開してきましたが、無事に目標額を超えて終了いたしました。東京まゆみ会会員の皆様のご厚情に感謝を申し上げます。

母校の教育方針である「まゆみの精神」は豊かな人間性の実現を図るための教育に役立てられています。私たち同窓生も社会活動において「まゆみの精神」を発揮してご活躍されていることを誇りにしたいと思います。

さて、私たちの「東京まゆみ会」も昭和23年に発足して今年で設立75周年を迎えました。設立70周年記念総会時には前会長の安藤勇夫氏に執筆頂いた記述の中に「東京まゆみ会」の設立に至る経緯が詳細に述べら

れています。内容は同会の初代会長を務められた安齋博氏が同窓の復員者の連絡場所となり、無事帰還された同窓のお祝いを企てましたが当時は外食券が必要で適当な場所が見つからず困り果て、同窓の今泉氏にお願いしたところ今泉氏が関係している三菱電機関係の丸ビルの地階の「ほていや食堂」に約20名の同窓生が集まることで喜びの宴を開くことができたのが「東京まゆみ会」設立のきっかけとなったと述べられています。

このことを現在に当てはめると、新型コロナウイルス感染で約3年にわたり会員の皆様と一同に会うことができませんでした。今年は4年ぶりに10月14日に四谷のスクワール麹町で開催に向けて準備をしています。75年前と同じように仲間との再会を喜び合ってお互いの健闘を支え合いたいと思います。

会員の中には新生安達高校となった昭和23年卒業の巻山寛氏はじめ大勢の方々が元氣にお過ごしになっておられます。どうか、各年次の同期の方々をお誘い合せの上、多くの皆様と「設立75周年記念総会」を迎えられますようお願い申し上げます。

会員の皆様にお願ひ事で恐縮でございますが、私は昨年から体調を崩し現在は体力の回復を目指し療養中です。3年前のコロナ禍が始まってからは「東京まゆみ会」の総会が開催できずにいた中で歴史ある「東京まゆみ会」の存続に向けて佐藤事務局長はじめ各副会長および役員の皆様の協力のもと取り組んできました。総会後の懇親会の場にて役員の方々に感謝と労をねぎらうお言葉をかけていただければ幸いです。

最後になりますが、会員の皆様のご健勝を心からお祈りいたします。そして「東京まゆみ会」活動への変わらぬご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。



「母校創立百周年を祝って」 福島県立安達高等学校同窓会会長

五輪 美智子

大正12年4月16日、第1回入学式にて、神野浅次郎初代校長より100名の入学が許可されてから百年、われらが母校は、創立百周年の年を迎えました。

一万坪の広大な敷地に姿を現した木造二階建ての校舎、屋根に万年瓦の赤を葺き、四方に赤い塀をめぐらせ、寄宿舎は未だ完成せぬものの、正面玄関も出来上がり、威風堂々開学した安達中学校を想像するだに胸が高鳴ります。試験会場は現在の二本松北小学校で、試験科目は「国語・算術・作文」。定員100名に対して志願者180名余の高倍率で合格発表は成績順だったといえます。

佐久間正前同窓会長からお借りした安達中学開校記念のポストカード（三枚組）に、校舎と金に輝く中学の徽章、そこに当時の川端福島県知事、高橋郡長、神野校長の写真が組み合わされたものが有りますが、その色合いといい凹凸のあるお洒落なデザインといい、まさに大正ロマンそのもので、時折眺めては何とか複製できぬものかと思案しています。

コロナ禍での二年間、総会が出来ませんでした。創立百周年の今年は、同窓会総会を5月20日に開催する予定です。またこの二年間、東京まゆみ会の皆様を始めとして、全国の同窓生や地域の企業の皆様に募金をお願いしてまいりましたが、3月末には、1448名の皆様や246社の企業様からお寄せ

いただいた募金が三千万を越え、実行委員会が予定していた全ての創立百周年記念事業を予定通り実施できる見通しがたちました。ご協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。誠に有り難うございました。今年の卒業生には「anniiversary100th Ando High School-2023-」の文字に、公開大文化祭の投票

で選ばれたイメージキャラクター「安達翔」と「安達真弓」さんの笑顔をデザインしたトートバッグをプレゼントいたしました。4月からは「メモリアル基金」を始動させ、各種検定試験への支援を予定していますし、記念誌「安達百年」の発刊に向け、御寄稿いただいた原稿を読むでは、泣いたり笑ったりしながら、来年2月末の完成を目指して、編集会議を重ねております。10月28日の式典まで、総務・式典・祝賀会・記念行事・記念誌の5つの委員会が一丸となって取り組んでおりますので、何とぞ一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

創立記念日間近の4月13日に、昨年植樹した「百年桜」のお披露目を、生徒会と吹奏楽部の協力を得て開催いたしました。高さ5メートル程のエドヒガン（紅しだれ）で、看板には「百年桜」この桜は安達中学校第一回第二回の卒業記念の桜を継承し、安達高校創立百周年を記念して植樹しました」と記されています。校舎正門の「三顧の松」と「高橋信次博士の像」に見守られて、全学年の生徒さんと一緒にお披露目が出来たことはこの上ない喜びでした。吹奏楽部の校歌演奏に、野球部とサッカー部の男子生徒が大きな声で歌った校歌に涙をこぼしたのは私だけではありませんでした。7月には創立百周年記念行事の演奏会も予定されています。今年の東京まゆみ会総会で懐かしい皆様にお会いし、記念行事など詳しくご報告申し上げますのを楽しみにして、筆を擱きます。



「」挨拶

福島県立安達高等学校校長

伊藤 勝宏

私は安達高等学校校長、伊藤勝宏と申します。本年度2年目となります。東京まゆみ会会員の同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校教育の充実と発展のためにご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年は創立100周年の記念の年となります。本校の前庭には、この記念事業の一つとして、ベニシダレザクラが昨年植樹され、これを生徒が「百年桜」と名付けてこの春、僅かでしたが花を付けてくれました。この桜のお披露目式と吹奏楽部の年度初めの演奏会を兼ねて、4月13日に記念コンサートがお昼休みに「百年桜」の前で実施され、この記念すべき年のスタートを切ることができました。

このように、安達高校では10月28日に行われる創立100周年記念式典に向けての準備を進めておりますが、それに合わせて、次の百年に向けた学校づくりも行っていきます。昨年度末には福島県教育委員会から、以下のとおり本校のスクールミッションが示されました。

① 高校の存在意義

「まゆみの精神（強靱、しなやか、清楚、誠実）のもと、県北地区のキャリア指導推進校に位置する普通科の高校」

② 期待される社会的役割

「健全で豊かな人間性を高め、地域を大切にすする心や自らの将来を開拓する力を身に付けた、地域に貢献できる人材を育成する学校」

③ 目指すべき学校像

「ユネスコスクールに認定された県内初の高校として、国際理解教育や復興教育を踏まえ、ESDの理念に基づく探究型学習を実践することにより、地域社会の未来を創造する学校」
ここに示されたスクールミッションは、本校に対する社会的な要請をよく表していると思っております。このミッションに基づき、安達高校としての今後の存在意義を示すスクールポリシーを、職員一丸となって検討し作成している最中です。式典の行われる10月までには、本校のスクールポリシーとそれを踏まえたブランドデザイン（全体構想図）も発表したいと考えています。

同窓会報にも書きましたが、皆様の母校、安達高校には皆様の思い出であり心の拠り所となる素晴らしい宝物があります。

「三顧の松」「高橋信次博士像」「まゆみの木」「ブロンズ像早蕨（さわらび）」「百年桜」。そしてこの春、二本松萬古焼窯元の井上善夫先生より寄贈いただきました陶器製の大作「蘇る大地」などです。また、本校の新たな校旗も記念事業の一環で作製されることになっていきます。安達の地にお帰り際には、ぜひ本校にお立ち寄りになり、100年続く伝統に思いを馳せながら、皆様の高校時代を振り返りつつ、現在の母校の姿を見ていただけると幸いです。東京まゆみ会会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



文部科学大臣賞受賞

中根(旧姓大塚) 瑠子(昭39卒)

絵の公募展に30年間応募して、やっと文部科学大臣賞を受賞しました。

2011年3月11日の東日本大震災は、誰もが記憶に残る大惨事でした。その年の7月末真夏の暑い日、南相馬では「復興野馬追い」として500年の歴史を持つ甲冑競馬がおこなわれました。その馬に乗っている方が知り合いで、招待されて行きました。当時常磐自動車道は震災で閉鎖され、岩槻インターから東北自動車道をひた走り、私の運転する真っ赤なスポーツ仕様のマイカーは、私の気持ちを乗せ福島にむかいました。福島西インターで高速をおり南相馬につきました。

祭りの前に知人の母親が被災地を案内してくれました。震災から4か月たち、被災地は大分整理され、家屋のあったところは土台だけ残っていました。海は、はるかかなた「ここまで津波が来たのよ」との言葉に驚くばかりでした。近くにメチャメチャになった車が山積みになっていました。赤い消防車、黒いトラック等、目のあたりにし、息をのみました。

いざ祭りへ

祭り会場は大勢の人がおとずれていました。馬に乗る友人にいました。身を守るためか真夏なのに綿入れの着物を着て、汗びっしょりでした。

甲冑競馬が始まりました。1レース6頭くらいで走りました。



相馬の宴 中根 瑠

文部科学大臣賞

白ハチマキに甲冑を身に着け、各陣営の旗を背負い、砂塵巻き上げ猛スピードではしる様は迫力がありました。その感動を絵に制作「相馬の宴」と題して、新国立美術館の公募秋耕展に出品しました。文部科学大臣賞に選ばれ、南相馬へ電話報告しました。私の力だけでなく、被災した方々の思いも入っていると感ずることができました。

今後自分が感動する場面の作品に望みたいです。同窓会の皆様のご健勝を、お祈りいたします。



デジタル社会への移り変わりを 迎えて

山崎力(昭51卒)

先日スマホに着信があり、その後「Line見た？」と猫なで声の若い女性の声、思わず新たな「Line見た、詐欺」と思いましたが、着信表示が高校の1年次に同じクラスのA女史でありました。

高校時代にはあまり会話した記憶が無く、10年ほど前に参加した東京まゆみ会にて再会し、その席で幾人かの同期と情報交換した事があったな、と頭の中に残っていた薄い記憶が蘇り、この所以から本寄稿文を書かせてもらう事になった次第です。猫なで声の、、、はさて置き、本題に入らせていただきます。私は高校卒業後に進学のため上京しました。当時住んでいたのは、旧国鉄の板橋駅近くの学生向け古い木造アパートでした。このアパートからは毎日少しづつ高さが増していく池袋に建設中のサンシャイン60の様子を垣間見ることができました。毎朝眺めながら大学に通ったものです。私が二十歳の頃に開業したと記憶しておりますが、ちなみに私は未だかつてサンシャイン60の展望台には登った事はありません。卒業後はそのまま都内の企業に就職し、現在に至っております。

私が社会人になった数年後には肩掛け式の携帯電話が世の中に現れ始めました。当時は高額な事から個人利用は叶わなかつ

た時代です。所属していた私の部署には1台配置され、外出時には使う予定もないのに皆で競って持ち歩いたものです。当時の私は営業職でしたので、外出時にはいつもポケットベルを腰につけて都内をウロウロ散策しておりました。「ベルがなったら3分以内に事務所に連絡」というルールがありました。電話を入れてもほとんどは大した用事ではなかった、と記憶しています。今ではインターネット関連サービス、スマートフォンが普及し、昔とは比べようがないほど便利で快適な社会になったと感じております。その反面、各情報が溢れかえっている環境に身を置いているからか、「世の中の流れに乗り遅れる」というような強迫観念を感じつつ、また人情が希薄になってきているかも、と思いつつ日々を過ごしております。

アナログからデジタル時代の変革期に携わったとは偉そうには言えませんが、私が今まで経験した中で強く記憶に残っている事柄を記させていただきます。

某通信会社に所属していた頃に研修訪問した映像研究施設での事です。

入口の自動ドアが開くと目の前にロボットが立っており、「いらっしゃいませ」と言ってお出迎えてくれました。そして受付台前まで我々をエスコートしました。受付台に表示されている訪問先のボタンを押すと電話が繋がって相手方が応答する、ようになっておりました。今ではごく普通の自動受付装置ですね。また今のファミレスでの注文はタッチパネルに入力し、注文した品はロボットが運んでいます。人間は、、、、さて無事受付が終わり、研究室で説明を受けながらデモを見たときのことです。

厚さ1mmにも満たない透明フィルムに映像が流れているのを

目の当たりにしました。最初はデモ用のサンプルと誤っていましたが、映っていたのはリアルタイムで放送されているテレビ番組でした。ちようどプラズマや液晶テレビが出始めの頃と記憶しております。研究者曰く、「この技術を世の中に出現させる時期云々は我々が決めることではない」と言っていたことが何故か今でも鮮明に覚えています。

私は日本の狭い家屋にはピッタリで大ヒット商品となる、と思っていたのですが、今まだ世にはでていないようです。薄型テレビが全盛です。当時の液晶32型テレビが約40万円以上していたほどでした。今では65型が10万円前後で購入可能な時代です。最近では紙の原稿の代わりにスピーチプロンプターを利用している講演者を見かける事が多くなりました。当時のこの研究所の技術の進化系でしょうか？

次は17〜8年前頃に研修訪問した米国のベンチャー企業のサービスについてです。(以下A社とします) A社が提供していたサービスは、ネットを活用したレストラン予約サイトでした。今でいうネットで完結する予約サイト「一休・com」や「食べログ」のようなものです。

しかしながら、この頃は電話での予約が主流であったことから、A社のサービスもネット上で予約が完結するのではなく、電話を利用したものでした。ネット上に表示しているのは各レストランの案内用HPのみです。

A社のビジネスモデルは、A社がレストランのHPを無料で作成します。そしてレストランの同意得てA社が公開しているレストラン予約サイトにレストランHPを掲載します。掲載されたHPには写真入りメニューやお店の紹介、そしてレストランに割り当てた予約専用電話番号(いわゆるIP電話)を表示し、その

番号を経由して予約が成立した場合、手数料収入が発生する、というものでした。

具体的には、レストランに予約の電話をし、レストランの人へ来店日時や人数、席等の希望を伝え、希望席があれば予約完了、となる流れかと思えます。

そして予約が成立するとA社はレストランに手数料を請求する事になります。私はてっきり予約成立後はレストランがA社に申告、と思っていました。予約成立の有無はシステムが判定するとの事でした。

ではどのように予約成立を判定しているのか？ 答えは次の通りです。

予約成立判定には、通話時間、受電の時間帯、発信地域、人数、利用回数、当日の天気予報・交通量、重複利用者か否か、過去キャンペーン等々、膨大な情報が入ったデータベースを活用し、一定のアルゴリズムを用いて判定するとの事でした。(当時の私には理解不可、今でもですが) 適合率は90%であるとの事でした。当時はビックリの経験でしたが、今ではかたちを変えて当たり前のサービスとして世の中に浸透しております。

ネット通販、AI、そして話題のChatGPT、このようなサービスは今後どのようにかたちを変えながら進化していくのでしょうか？

未来の通販サイトは商品の購入ボタンを押す前に購入品を予測してドローンが商品を運んでくるのでしょうか？ 車は空を飛んでいるのでしょうか？ 宇宙旅行は当たり前になっているのでしょうか？

どのような時代になっても、義理人情や人類愛に満ちている社会である事を願ってやまない今日この頃です。



「世界遺産」

門前の小僧のよもやま話

佐々木（旧姓嶋原）ミナ（昭60卒）

東京まゆみ会、第35回会報を今、お手に取って読まれている先輩の皆様方、後輩の皆様方、関係者の皆様方、初めまして。同期で東京まゆみ会の世話役を担っている幼馴染より猛烈なご指名をいただき、この度僣越ながら会報に寄稿させていただきます。佐々木と申します。

私は今TBS毎週日曜夕方6時から放送中の「世界遺産」という番組に携わっております。元々はTV番組のディレクターをしておりましたが、一旦出産で仕事から離れた後、裏方の裏方「お金」に関わるサポートを主に担う業務にご縁をいただき、番組歴は四半世紀（25年）になりました。自分で書いていてびっくりです。確かに番組に ついたばかりの頃ハイハイしていた子どもが、社会人ですので。ここからは番組について同期から出されたお題に沿って番組の裏話的なことを書きたいと思えます。

TBS「世界遺産」は1996年4月に放送を開始し、この春28年目に突入したドキュメンタリー番組です。なかなかの長寿番組ですね。

番組が始まった当初は「世界遺産」って何？と、世界遺産という言葉の意味がまだそれほど認知されていませんでした。世界遺産について簡単に説明すると：1972年、ユネスコ総会で

採択された世界遺産条約に基づき「普遍的な価値」を持つ、建造物、景観、自然、を人類共通の財産として後世に遺すために世界遺産としてリスト登録し、賛同する国や地域が協力して未来へつなげる活動を行っていくというものです。

※ユネスコは加盟国193か国、準加盟地域12

2021年7月の時点で文化遺産897件、自然遺産218件、複合遺産39件、計1154件が登録されています。（2022年度はロシアのカザンにて開催予定でしたが中止となりました。）

番組は後世に遺したい世界遺産を圧倒的な映像で紹介するというコンセプトで始まりました。世界中の誰もが知っている様な名所旧跡から、普通の旅行では行くことが難しい地域や厳しい自然の中へも世界遺産になっている場所ならどこへでも可能な限りは撮影したい。聞いてびっくり、見てびっくり（がっかりも勿論あります）な体験そのものが今も番組の力です。また、その世界遺産を高画質でより良い映像に残すため、他では見られないこだわりの映像表現をしていく努力も地道に重ねてきました。

※ユネスコのホームページにある世界遺産リストの紹介動画には番組で撮影した映像が多数使用されています。ご興味がありましたら是非ご覧ください。

そんな番組ですが、やはり長く番組を続けていると様々な困難な出来事も多々発生します。中でも番組最大の危機は世界に蔓延したコロナのパンデミックと言えるでしょう。テレビは撮影した映像がなければ番組そのものを成立させることができせん。番組を一体どうやって制作したらいいのか？これは番組だけの問題ではなく、テレビ業界全体が直面した大変厳しい現

実でした。

コロナ禍始まりの頃は、昨日できたことが今日できなくなるというのが突然、当たり前前の様に起こり：番組でもロケ出発2日前に中止の判断をしました。出国は出来ても、帰国できなくなる可能性が高まりやむを得ずの判断でしたが、次を仕切り直そうと意気込んでいたのもつかの間、

その中止した日から3年以上の間、感染者がどんどん増え、国境の封鎖が相次ぎ、まさしく手も足も出ない状態。予期せぬ状況下での苦しい番組制作が始まりました。

ともかくにもテレビは映像がなければ番組が作れません。が、世界遺産という番組は取材地の最高のタイミングで取材するよう準備して臨みますので、ロケに出られなくても半年分ほどの新作ストックはありましたが：コロナは落ちら着くどころかますます全世界で流行が衰えず、このままではいずれ放送するものがなくなってしまうという厳しい状態の中：放送をまず続けられたのは、やはり技術の革新、文明の利器の発展があったからといえます。

ロケは長い間番組制作にご協力いただいていた海外在住のコーディネーター、現地技術スタッフとリモートでつなぎ、こちらの意図する番組内容に沿うよう代わりに撮影してもらい、その映像を収録したメディアを送ってもらい制作するという方法で番組を作ることになりました。国境は越えられないけれど、国内移動なら何とか出来るというのは、どの国でもほぼ可能でしたので。その後、日本で構成、編集など仕上げ作業を行う方法で何とか番組を休まず放送を続けることができました。と、書きましたが：これは自分たちが取材に行くより何倍も準備に時間がかかり、撮影も思ったとおりの映像が撮れるわけでもな

く、大変難しい作業となりました。これまで取材してきた映像のストックもありましたので、何とか間に合わせた部分も少なくありませんでしたが、インターネットの普及や撮影もアナログからデジタルへと大きく変わった技術革新のおかげで放送に見合う番組が制作できたのはある意味奇跡だったかもしれせん。

現在は海外ロケも復活し、また沢山の「聞いてびっくり、見てびっくり」な世界遺産をこれからもご紹介して参ります。どうぞ日曜の夕方、ご飯を食べながら、晩酌をしながら、リラックスしながら、これからも残していきたい多様で貴重な地球の記憶の数々を楽しんでご覧いただけましたら嬉しく思います。

※番組のエンドロールに、ひっそりと私の名前がクレジットされております。そんなことも番組を一度ご覧いただくきっかけになれば幸いです。



※ 毎週日曜日夕方6時からTBSにて放映中。



コロナ禍での病院勤務

医療従事者としての思い

喜古 康博（昭60卒）

クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号は、2020年1月20日、横浜港を出発し、様々な国に立ち寄り、2月3日に横浜港に帰港。この航行中の香港で下船した乗客が、新型コロナウイルスに感染していることが確認されました。その後の検査で多くの陽性者が感染していることが判明、重傷者は神奈川県内の病院に搬送されました。私の勤務する病院は救命救急および災害医療を重点に置く基幹病院であり、重症者を受け入れた施設の一つです。それから現在まで数多くの患者が入院し、様々な経緯をたどり退院されました。今回、コロナ禍における医療現場が実際はどのような状況であったのか、医療従事者（薬剤師）として一部をお話しさせていただきます。

【医薬品等の供給不足】

第1波から第5波頃までは医療現場で使われるマスクやガウンといった防護具の不足が深刻化しました。皆さんもマスクの入手にはご苦労されたかと思います。当院においては医師と看護師以外はマスク1枚/週、コロナ患者に接するスタッフのみN95マスクが配布されました。消毒用アルコールは、医療現場でも不足状態でした。きちんと手洗いを行えば、通常業務は概ね遂行できるものの、医療機器の消毒については定められた濃度以上の消毒用アルコールを使用する必要があります。

非常手段として県や酒造業者から提供されたアルコールを院内で調製し、消毒用アルコールを作成しました。

新型コロナウイルス感染症にかかり重症化した場合、最も多く見られているのが、ウイルスが肺で増殖することで肺炎が悪化し、急性の呼吸不全になるケースです。呼吸不全になると、肺の機能がそなわれるため、空気中の酸素を取り込む能力が低くなり、血液中の酸素の量が低下してきます。自力での呼吸が困難となった場合、人工呼吸器管理や体外式膜型人工肺装置（ECMO）を用いて肺を休ませ、ウイルスの排出を待つこととなります。第1波から第6波、特にデルタ株による第5波では、新型コロナウイルス感染症で人工呼吸器を必要とする重症患者が全国で急増しました。人工呼吸器を装着する場合、患者さんの苦痛を和らげるため麻酔薬や鎮静薬を使用することもあります。これらの薬剤は通常、手術を行う際の全身麻酔や胃の内視鏡を実施する時にも使用される薬剤で、想像以上に需要は供給を上回り、流通が滞りました。そのため、悪性疾患・緊急性の高い疾患以外は手術が延期されることになりました。また、薬剤不足によって人工呼吸器を継続的に使用している患者さんでさえも、使用中止を検討せざるを得ない危機的状況まで迫っていました。しかし、病院内で様々な方策を講じることによって、何とかこの状況を免れることができました。まさに、医療崩壊の一步手前の状況でした。

【院内感染と家族内感染】

新型コロナウイルス感染症は、感染した患者さん、あるいは医療従事者とともに医療現場に知らず知らずのうちに入ってきます。発熱していれば、サーモグラフィカメラや体温測定で発見できそうだと思うかもしれませんが、発症初期には発

熱がみられないことがあります。また咳が出ない人もいます。そもそも新型コロナウイルスに感染していても無症状の人が一定数います。特に厄介なのが、感染してから症状が出るまでの期間が最もウイルス量が多いのです。それならば検査をすればよいだろうと思うかもしれませんが。実際に、入院患者全員にPCR検査を行いました。検出にも限界がありました。また初めのころは検査結果が判明するのに数日かかり、結果が手元に届くころには院内で感染が広まっていることもあり。そのため、入院患者さんの受け入れをお断りする事もありました。感染力の強いオミクロン株が主流となったころは家族内感染が拡大したため、スタッフや家族が感染あるいは濃厚接触者となり数日間の出勤できない状況が散見されました。当然、医療現場は人員不足となり残されたスタッフには大きな負担となりました。

新型コロナウイルス感染症による医療従事者の精神疲労は今後も続きます。3年前から現場の医療従事者は何度も「またか」を体験し、繰り返し返される波に医療従事者の内面は、燃え尽き症候群のような状態になってしまってもおかしくない状況です。新型コロナウイルス感染症は感染法上、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたことで、全国の一日の感染者数を目にするともなくなりました。これによって、国民の感染症への関心は薄れ、ワクチン接種率も低下し、今まで行ってきた感染対策も実施しなくなることでしょう。実際、混雑した電車内でもマスクを外し会話する人たちの目にすることも多くなってきました。しかし、新型コロナウイルス感染症がなくなるわけではありません。今後も流行は起こりますし、高齢者や基礎疾患のある人は重症化することもあります。2023年5

月8日からは、マスクだけでなく感染対策に関する全てのこと「個人の判断」に委ねられるということになりました。自身自身の重症化リスクを評価し、ワクチン接種に関しては検討していただきたいと思えます。流行状況を適切に把握し、流行時にはマスクを着用し外出を控えることも大切です。一医療従事者として、今後も感染症対策に努めていただくようお願いいたします。

“我が人生”悔いなし

これからも！

私 昨年の二月「今日から十八歳」

と家族・知人に宣言！そして、此の二月で二十八歳、一年を十年間に凝縮した人生で、二十八・三十八と米寿を迎い八十年を再び体現、充実した「我が人生悔いなしこれからも！」を実践したいと過去を振り返って見た！

一八歳高校卒業そして上京し大学受験に失敗、そのまま専門学校に進学し何をした！と目的意識のないまま、学校からの推薦で入社した企業（平成二十九年百年の歴史で国立新美術館・六本木ヒルズ・スカイツリー製作）で、設計業務に配属され社会人としての一步を踏み出しました。

全国展開の業務で対人関係の楽しさを知り、生き甲斐と生活の安定基盤を享受しつつ妻を娶り、成田の地に家を構い、住環境を整うべく日曜大工を始め、三十年間で二十六ヶ所の建造物を製作施工、特に大物は傾斜付き半地下車庫（施工期間十四ヶ月）を見よう見まねで施工、専門業者も見学、寸法を取りに来るほどの出来ばいでした。（屋上は築山）
又その間家族が増える度に、増改築四回で二世帯可能な住居とし、現在は娘家族五人と同居しています。



桜花欄漫自宅ベランダにて（パソコン画での自画像）

昭和34年卒：丹野 朝二



1988:3～ 15度傾斜付き

妻の看病の為五十八歳で早期退職、妻の闘病と共にする中初孫娘を迎い入れ、孫の成長を一喜一憂しながら見守り、妻は「私の“あやし”で笑った」と自慢げに喜んでいました。が翌年の五月闘病の甲斐もなく、私と娘の見守る中静かに息を引き取り、息子は早めの「母の日」とカーネーション携えて来訪、母との死に目に会えず涙した。

妻は書道の師範として、闘病生活の中「春がすき、夏も好き、秋はもど好き、冬はすばらしい、春夏秋冬ぜんぶ好き」と時世の詩を揮毫に遺していました。

そしてその後六十一歳から囑託として会社に復帰、使ったことのないパソコンのイ・ロ・ハを先輩に習い文字打ちをしている中、パソコンにはいろんな機能が備わっていることが分かりました。

それではと、日曜大工で施工した成果品を本に纏め「私の日曜大工」設計・製作・施工として執筆発行、その後ワード機能による絵画手法を確立「ワード機能のみでパソコン絵画」を執筆発行しました。（両著書母校に既寄贈）

六五歳で会社をリタイア、本格的に「パソコン絵画教室」を開設と同時に、地域社会に関わり何時の間にか、十九からの役職で多忙に動き回っています。

パソコン絵画展を生徒と頻繁に開催している中、朝日新聞より国内外に報道され、近代絵画手法として日本テレビ「スッキリ」、海外では、タイ国営テレビで日本の「技」を国内に紹介と



「20歳で再会」：画題名

文化芸術：6

- ・世界デジタルアート協会理事
- ・パソコン絵画ワード会会長
- ・ワード絵画教室主宰
- ・ワード絵画彩の会講師
- ・美術団体ルシャキバル理事
- ・健康管理推進講演

会社OB会：2

- ・全社世話役
- ・設計部世話役

地域貢献：8

- ・橋一ちょボラ隊(橋一クラブ)
- ・スクールガード
- ・子供みこし代表世話役
- ・自主防災会ブロック長
- ・地域避難運営情報班副班長
- ・町内会会長
- ・成田市文団連協議会理事長
- ・橋賀台小学校評議員

学会：3

- ・副支部長
- ・創価長
- ・敢闘会支部責

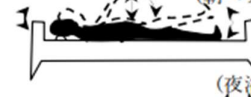
「フレイル予防」の3要素

(20年間実践)

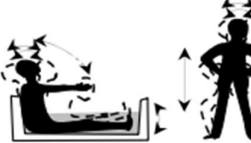
- ・栄養(自身の健康朝食)



- ・運動(朝夕の丹野式ストレッチ)
(朝ベットで40分)



(夜浴室で30分)



- ・参加(絵画展他19の役職)



最新作「湖畔の集落」(国立新美術館で展示)

テレビ：15

- ・日本テレビ：スッキリ・未来シアター
- ・J:COM 東京・タイ国営テレビ
- ・テレビ東京：星めし旅
- ・読売テレビ：朝生ワイド す・またん
- ・成田ケーブルテレビ：9

新聞：8

- ・朝日・毎日・読売・聖教・日経
- ・千葉日報：3

情報誌：14

- ・エリート：10・北総まゆり：2
- ・成田エリア：2

種々のマスコミが放映報道(三十七回)してくれました。又この二年前の八〇歳の折には、「傘寿を迎えての集大成」も執筆発行出来ました。(A4で一八〇ページ)

この様に活動出来ているのは、何事にも興味を持ち挑戦、興味を持つ力は若返りの秘訣と、日々周りに行動で発信！これからも高齢者の「フレイル予防」(心身の虚弱)に心掛け、二十八・三十八歳と、米寿を目指して行きたい。

尚 下段は、文化活動の投稿記事二回/年

パソコン機能で
「大人の塗り絵」

パソコン絵画ワード会 丹野

人生年を経る過程で、色々な体験キツカケを重ねて、成熟するものです。私も六十一歳でパソコンを体験、絵画手法を確立(ワード機能で描画)、現在五十人からの生徒を輩出、色々な分野で活躍している。

現在も、先駆者としての自覚を持ち、キツカケ作りを心掛け、実演やイベント、そして如何に容易に「パソコン絵画」を素人が取り組めるかを発信！この度も、「大人の塗り絵」を創作、



簡単な三つの操作で、塗色を繰り返し画像を変貌させる。

パソコン機能での色の種類は無限大、パーツを選び、色を選択確定するだけで、色々な塗り絵を表現できる。

文化庁の呼びかけでの、地域文化人と学校とのコラボ推進にも、「パソコンで描画」としてこの度登録しました。

※丹野朝二様からのご寄稿文(原文)を掲載してあります。パソコンを使い、見事なできばえです。

会員皆様の近況

(頁14～21、卒年順に掲載、敬称略)

○仁平満男(昭和25年卒)

鮮緑の候お変わりなくお過ごしのことと存じます。いつも心温まるご連絡をいただき欠席を重ねており申し訳ございません。今回も昨年より太腿の治療に専念しており、歩行の練習中につき、欠席せざるをえない為、欠席することにいたします。同時に、年も94才となりますので退会致させて頂きますので宜しくお願い申し上げます。永い間有難うございました。

○糠沢ジョセフJ(昭和25年卒)

大阪に移って、はや10年。東京が恋しい、皆さんの顔を思い浮かべて、この文を書いています。91才になりました移動もままならない身です。皆さんの御多幸を祈ります。

○菅野 明(昭和26年卒)

令和4年の秋に墓参(本宮市石雲寺)に帰り、足を延ばして安達高校の附近を一周しました。色々懐かしく思い出されて、よい秋の一日でした。高齢者として社会全体から大事にされたお蔭で、新型コロナの3年間を無事に生き延びました。10月14日を楽しみにしています。

○崎田 功(昭和27年卒)

皆様のご健康を祝福申し上げます。私こと昨春、体重激減となり、難病(呼吸器系)にかかりました。終日床中療養ではありますが、食欲と気力は残存しています。これを頼りにして励む所存です。唯一効く薬ながら後遺症を伴い二重苦を強いられています。「健康をなくして初めて健康の有難さを知る」を痛感しています。皆様ご自愛ください。

○安斎正敏(昭和27年卒)

何とか1人暮らしの毎日ですが、久しぶりに10月の会には参加しようと思っております。思えば卒業以来70年を経過し、この間、多くの級友が亡くなりすっかり淋しくなりましたが、そのためにも母校100年記念の催しには是非参加したいものと考えております。人生終末期にあたり思い出すのは幼少期から続いた戦争の時代と、戦後の混乱期のことです。何やら軍事力強化を目指す動きが次第に明確になろうとしているこのごろ、今こそ日本国憲法に立ち返り戦争の無い平和な日々を大切にすべきです。

○武藤長充（昭和27年卒）

拝復 幹事役ご苦勞様です。申し訳ありませんが、今回も欠席失礼いたします。

小生も昨秋米寿を迎え、今迄には胆石その他種々の入院治療を受けましたが、現在何とか日々息災に過ごしております。

想えば小生らは入学直後の学制改革で高1まで下級生が不在で、我々は中高通算6年間を真弓の学び舎で学ぶことになりました。

中2の時校歌作詞者の晩翠先生（翌年死去）のお話を講堂で聴いたり軟式テニス部の諸君が伊勢志摩の全国大会で優勝し、町内あげて二本松駅前から学校まで提灯行列で出迎えたことなどが想い出されます。

皆様のご健勝を祈り申し上げます。

○撞井ヨウ子（昭和29年卒）

母 撞井ヨウ子は、2019年11月より施設に入所しており、心穏やかに毎日を過ごしております。

皆様もお元氣でお過ごしください。

○菅野寛雄（昭和30年卒）

高校の同窓会（東京まゆみ会）のご案内を戴きましてありがとうございます。

小生、体調は年令相応だとは思って居りますが、何しろ高齢なもので遠路の外出は出来るだけ避けるように努めて居ります。

という事で、同窓会には出席できません。ご盛会を祈念しております。

○本田 茂（昭和30年卒）

この9月10日で87歳になります。最近はずつかり歩けなくなり、ツイついてようやく歩いている状態ですので総会・懇親会には出られないので宜しくお願い申し上げます。

○油井文子（昭和30年卒）

東京まゆみ会の開催のご案内頂戴しありがとうございます。遠方への出歩き大変になりましたので、欠席させて頂きます。皆様のご健康と盛会をお祈りしております。

○宮田陽三（昭和30年卒）

最近、腰痛がひどくあまり歩くことが出来ず、家の中にいることが多く、困っています。それでも、気分が良く痛みも少しの時は極力、歩くようにしてはいますが、これが毎日の繰り返しで困っています。それ故、東京まゆみ会も申し訳ございませんが欠席致しますので宜しくお願い致します。

○大島庸世（昭和32年卒）

東京まゆみ会の皆様には大変お世話になっております。

コロナ禍で、3年続きの総会・懇親会の取りやめで、何か淋しい思いを致しました。

4月、何時ものモダンアート協会展（東京都美術館、上野）に、木版画の大作（91×80cm）を出品し、ホッととしたところですが、いつまで、この様な大きな作品が創れるものかと、少し考え込んでしまいました。

○佐藤邦英（昭和32年卒）

私達32年卒3年A組は、60歳以降殆ど毎年同級会を開催してきました。約20年間に記念文集を3回発行し、卒業以来の情報交換をして参りました。第1集平成10年11月「還暦を迎えて」第2集平成19年9月「卒業50年の歩み」第3集平成27年9月「喜寿を迎えて」です。各集共担任の糠澤茂夫先生から玉稿を賜り、序文として誌面に花を添えて頂きました。先生は一昨年他界されました。コロナ禍で3年間同級会を開催することが出来ず文集を読み返し、先生や故人とられた旧友を偲んでおります。今年、最後の同級会を開催したいと考えています。

○保坂弘子（昭和32年卒）

皆様お元気ですか。

コロナのあの大変な状況も落ち着き、少しずつ普通の生活が戻ってきましたが、まだまだ油断は出来ないと、思う心もあり、落ち着かない毎日です。

少しずつ外に向いて頑張っている今日この頃です。

休んで居りました踊りもなんとか再開し、おさらい会できる様になりました。

まだまだ前を向いて頑張ります。

お会いできる日を、楽しみにして居ります。

○横島享子（昭和32年卒）

いつも大変お世話様になっております。

私も84歳になり何をするのも億劫になり、やっと生きております。

皆様にお会いしたいのですがこの様な状態ですので、今回も残念ですが欠席させて頂きます。

皆様におかれましては、お元気のお過ごしを祈念致します。

○安斎 隆（昭和34年卒）

母校の校歌は、あだたらまゆみが万葉集に出ていることから始まる。そのまゆみの木の皮で和歌を作っていた。

紫式部らに「陸奥の国の紙」と重宝された。その故郷は自分が選んだのではない。出生という宿命である。高校の友人との出会いも宿命である。

私は故郷を離れ、お城山の「戒石銘」を誇りにしてきた。海外でも機会がある度に紹介してきた。

昨年人間学を学ぶ月刊誌として有名な「致知」に戒石銘を書かせてもらった。

昨春の二本松ロータリークラブ60周年記念の際も話を「戒石銘」で結んだ。

その全文が「ロータリーの友」という全国版に掲載され今年も幾つかの支部から誘われている。

○移川栄二（昭和34年卒）

役員の皆様何時もご苦勞様です。自身健康ですが都合悪く出席できないので皆様に宜しくお伝え下さい。

○氏家盛通（昭和34年卒）

四つの“ふるさと会”

私には、一つだけ自慢できるものがあります。それは、高校の級友に優れた人がいたことです。

40名のクラスでしたが10人以上が首都圏に出てきました。

一人は安斎隆福島県人会長です。彼は、東北大学在学中に司法試験に合格・日銀に入行・セブン銀行を立ち上げ、現在は東洋大学の理事長となっています。

二人目は、東北大学工学部を卒業後、日産自動車に入り、東京まゆみ会会長や東京東和会会長・東京二本松会の幹事長、現在福島県中通り会の安藤勇夫会長です。

ちなみに私は、これら四つのふるさと会に所属しているだけです。

○最上 茂（昭和35年卒）

東京まゆみ会の会員の方々、大変ご苦勞様です。

今年は3年ぶりに東京まゆみ会が開催されることを願っております。

私の近況報告は、以前から続けております毎日のウォーキングと月2度程の近県の低山登山です。山へ行きますと、いろいろな花々がある他に、別のちよつとしたがあります。それは、天狗岩とか猿岩とか胎内巡りとかがあり目を楽しませてくれます。最近出会ったのは、「ムンクの叫び」です。これは上野原市の「坪山」へ登った下山の時でした。写真を添付しましたので見ていただき、はたして「ムンクの叫び」ににているでしょうか。

5月に行った山では、丁度馬酔木が満開でした。そんな訳で、山は目の保養になる楽しいことが多く、健康にも役立ち、まだ



「岩カガミ」



まだ続けて行くつもりです。

○遠藤昭平（昭和37年卒）

持症の関節リュウマチが悪化して歩行困難になりましたが、治療の結果大分良くなりました。

懇親会にも出席出来そうなので楽しみにしております。

○早川ミツ（昭和37年卒）

昨年5月頃カラスが電柱の上から見ていて生ごみを散らかして困っていた時、ツバメが飛んで来てカラスを追い出し、その後カラスは軒下に隠れていて、生ごみを散らかした。

ある日2羽のツバメがカラスを林の方に追い出した。私 びっくりしました。それからカラスは来なくなつた。・・・ツバメは子育ての為かしら・・・？

我が家の外階段に一昨年巣を造つた。夫がフンが落ちたのを嫌がり、進路を止め私が外したが・・・ツバメは来なかつた。残念。

○山口弘二（昭和38年卒）

家庭菜園を始めて40年余り、年間を通じ、季節にあつた野菜を作り今、盛なのがスナップエンドウ、キヌサヤである。1日おきに1kg位づつ取れる。正直なもので手をかけてやればかけただけ実をつける。今年は例年になく暑いためか成長が早くナスも実をつけはじめた。

7月から8月には、えだ豆が沢山とれる。ビールを片手にえだ豆で一杯は最高である。

○中根珪子（昭和39年卒）

お世話になります。

会報の原稿依頼頂きまして光栄に存じます。

個人的な感想ですが、宜しくお願い致します。写真は適當の大きさにして頂ければ、ありがたいです。ワープロが下手ですみません。

同窓会でお会い出来ます事ことを、楽しみにお待ちしております。

○鈴木幸雄（昭和40年卒）

久しぶりの会合楽しみです。

元気にしています。今も健康の為に週2日沼津に勤務しています。

一期一会の出会いに感謝しながら余生を樂のしんでいます。

○小池茂樹（旧姓佐藤）（昭和41年卒）

伊達郡で育つた子供の頃、庭に実るグミやプラム、柿の実などが食べ放題の農家の子が羨ましかった。

それから数十年、東京経由で神奈川県民となり、自分の家で獲れた果物を食べる夢が叶いつつある。

ふるさと福島を想いリンゴや桃、ブドウ、そして地元神奈川のみかんと茶、シイタケを栽培、毎年子や兄弟に宅配便で送るほど収穫できている。

畑の野菜とともに「育てる」大変さを感じつつ、日々成長と収穫を楽しみにしている。

○太刀野静子（昭和41年卒）

皆様お元気ですか？

まだ、色々な面で世の中不安定な日々ですが、私、相変わらず生活しています。

3年前とあまり変わらず、ちよつとの運動と家庭菜園をして過ごしています。

野菜は、正直であまり手をかけない方が良い物ができる事もありますね。新鮮な野菜を食するのが、一番幸せですね。後期高齢となり、なかなか体が思う様に動かない時もあります。前を向いて、元気でいたいと思います。

お会いできるのを楽しみにしています。

役員の方々いつもありがとうございます。

○常住美智子（昭和42年卒）

遠くに過ぎ去ったある夜、なつかしい故郷の夢を見ました。

雪をかぶった安達太良山を背に、私の父98歳が麦わら帽子をかぶり畑の草取りをしている姿でした。雪の季節に麦わら帽子？父は高齢者施設にお世話になっており、もう4、5年会っていないのです。コロナ禍で仕方がないことと思っております。

それでも、とてもなつかしく、今年の父の日には姉妹と一緒に父に会いに出かける予定であります。

夢で父に会えたのですから、感謝・感謝です。安達太良山も雄大な姿で迎えてくれることでしょう。

○本田清五郎（昭和44年卒）

皆様お元気ですか。

本年も変わらず週3回の非常勤で板橋へ通勤しています。

職場への通勤や仕事でのコミュニケーション 健康の活力となつていきます。

○佐藤富美夫（昭和45年卒）

皆様、お元気ですか。

今年の4月初めに、全国旅行支援キャンペーンを使い、家族で福島に帰郷しました。宿泊代20%オフ、地域クーポン1人2000円がついていたので、ランチ代、お土産代になりラッキー!! 桜満開の下、お花見も出来ました。年中使えると良いのになあ。

今年の10月14日に、東京まゆみ会総会が開催されます。

4年ぶりになりますが、皆様とお目にかかるのを楽しみにしています。

元気が一番、健康でいられることに感謝。

○阿部伊勢吉（昭和45年卒）

71歳を迎えてから新たに、個人事業主として元気に働いています。

東京まゆみ会が発足して今年で75周年を迎えましたこと、心よりお祝い申し上げます。

10月14日（土）に開催される総会で4年ぶりに皆様とお会いすることを楽しみにしています。

○大野恵美子（昭和45年卒）

皆様お変わりありませんか。

私の家は東京ですが、隣県の埼玉に小さな畑を借り、野菜作りを楽しんでいます。今は、トマト、きゅうり、ゴーヤ、ピーマン等、一雨ごとにグングン伸びています。ほぼ野菜は、自給自足です。若い頃は農家の仕事は嫌いでしたが、このコロナで出かけられない時期にも畑仕事に癒されている毎日です。

○長南邦年（昭和45年卒）

―最近、感動した二つ展示会の話―

〈兵馬俑と古代中国〉始皇帝がつくらせた等身大の約8千体は、一つとして同じ顔がないことに驚きました。

〈土門拳写真展〉モノクロームの仏像写真は、おそろしいまでの実在感があり圧倒されました。土門拳曰く「ここと思ったところにカメラを向けクローズアップする。この仏像は何を言わんとしているのか。造形物であるからといって、形に捉われずは駄目だ。」写真を趣味としているので、土門拳の写真の真髄にふれることができて感動しました。

○渡辺弘次（昭和45年卒）

東京まゆみ会の皆様、今年はコロナも落ち着き、達高100周年の記念の年に東京まゆみ会の総会が開催できることを心より喜んでいきます。

自分の年令も71歳になり、百寿まで29年ですので、まだまだ人生を楽しく過ごせるように健康に気を付け、趣味のサイクリングに励んで行きたいと思っています。皆様健康を心より祈念しています。

○橋本哲雄（昭和47年卒）

元気で古希を迎えられたことに感謝です。ウォーキングは目標として継続中で、週5万歩以上を目標に荒川土手を主に歩いています。

最近、マンホール蓋（原則、カラー）の撮影を再開。2月以降、台東、墨田、江東、足立、葛飾5区で、32種類をゲット。キヤラクター物が増えてきています。因みに、二本松市のマンホール蓋の図柄は、桜、菊、鶯です。

○大内正造（昭和48年卒）

会員の皆様、お元気ですか。

今年は、やっと「東京まゆみ会総会・懇親会」が開催されるとの事、皆様の元気なお顔を拝見できるのを楽しみにして

私は、コロナ禍でしたが、山登りを楽しんでおりました。昨年は、念願であった「剣岳」をはじめ「岩手山・早池峰山・会津駒ヶ岳・越後駒ヶ岳・平が岳」の日本百名山を登ることができました。

○鈴木良子（昭和48年卒）

連絡をいただきありがとうございます。この日は法事がありまして福島に帰りますので、欠席させていただきます。ハガキ遅くなりすみません。

○菅野孝三（昭和50年卒）

皆様、お元気にお過ごししていることと思います。

コロナ禍で約3年間、色々なことがありましたが、やっと解除されて多くの人々が街に繰り出しており、活気が戻りつつあ

りますね。まだ油断せずには体調管理に留意していきましょう。私も、元気に仕事をさせていただいており、常に親に感謝しております。

これからも、東京まゆみ会が、ますます発展していくことを祈念しております。

○百川教彦（昭和50年卒）

東京まゆみ会総会・懇親会が4年ぶりに開催されることに誠にうれしく思います。開催にあたり「会長をはじめ役員の皆様方のきめ細やかな連絡・ご配慮に感謝申し上げます。

私は、今年度から東京消防庁新宿消防署において、消防業務推進員として職員等の訓練指導等に、微力ながらお手伝いしております。

今回の開催を楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

○朝比奈恵子（昭和51年卒）

3年間お会いする事が出来なかった分、楽しみにしております。

○佐藤愛子（昭和51年卒）

元気に過ごしています。

コロナのおかげでZOOMを使うようになり、COOKなどの配信も時々やっています。仕事も、まだ続けています（パートですが）。

身体の断捨離、リニューアル工事など大規模修繕も終了。今の時代に、生きててよかったと思う今日この頃。地球滞在期間を満喫中です。

○山田（塚原）由美子（昭和51年卒）

先月5月20日（土）まゆみ会本部の4年ぶりの総会&懇親会に出席して参りました。総勢80名位の同窓生は、初めてお会いする方がほとんどでしたが、すぐに打ち解けられるのが、不思議な感覚でした。

同じ安達高校を卒業しているというのは、こういう事なのでしょうね。

今年いよいよ開催される10月28日（土）の100周年記念式がとても楽しみに思える充実の一日を過ごし、新幹線で帰路につきました。

○鈴木君子（昭和55年卒）

ご連絡を頂き大変ありがとうございました。

返信が遅くなり申し訳ございません。10月14日ですが、家族の法事のため欠席させていただきました。事務局の皆様には、大変お世話になります。どうか宜しくお願い致します。

○大久保夕佳（平成11年卒）

大変お世話になっております。

茨城県で小学校教員として働いております。

○渡辺達夫（特別会員）

都内と近県の美術館には、いつもよく行って芸術を鑑賞し、ミュージアムショップもよく利用します。語学学校も教校、内容をよく調べて選んで通学します。

秋の総会を楽しみにしています。

東京まゆみ会会則

- 第1条 本会は、「東京まゆみ会」と称し、事務所を首都圏に置く。
- 第2条 本会の会員は東京を中心に広く在住する福島県立安達中学(旧制)、同安達高校(併設中学、本校および旭・針道・小浜・岩代・渋川・石井・大平の各分校定時制課程、夜間過程を含む)ならびに二本松実科高女、福島県立二本松高女、同安達女子高校の卒業者、同関係者で組織する。
- 第3条 本会は会員相互の親睦と共栄を図り、併せて母校の隆盛発展に寄与することを目的とし、そのために必要な諸般の事業を行う。
- 第4条 本会は次の役員を置く。任期は2年とし、再任を妨げない。
- 会長1名、副会長若干名、事務局長1名、会計1名、常任幹事10名以内、会計監査1名、幹事20名以内。
- 第5条 会長は本会を代表し、会務を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。事務局長は会の運営を円滑にするため、事務上における全般を遂行する。会計は本会の金銭出納、会計管理をする。常任幹事は会務を分掌、幹事とともに会の運営に当たる。会計監査は会計を監査する。
- 第6条 会長、副会長、事務局長、会計、会計監査、常任幹事(以上を常任役員と称する)は、総会において選任し、幹事は、常任役員会で選考のうえ会長が委嘱する。
- なお、補欠として選任された役員は、前任者の残任期間とする。
- 第7条 幹事会が必要と認められた場合、諮問機関として顧問を置くことができる。
- 第8条 総会は年1回、臨時総会は必要に応じ会長が招集する。総会では常任役員(※幹事以外)の選任、会則の変更、会計の承認、会計監査の報告、その他重要事項を決議する。
- 第9条 総会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところとする。
- 第10条 幹事会および常任役員会は、必要に応じて会長が招集し、総会に次ぐ重要事項や緊急事項を協議する。
- 第11条 本会の経費は、会費、寄付金などをもって充てる。会費は年額2000円とする。
- 第12条 本会の会計年度は8月1日に始まり、翌年の7月31日に終わる。
- 第13条 本会の事務執行に関する細則は、幹事会で決定することができる。
- (付則) この会則は、昭和48年4月1日より施行する。
- (一部改正)
- 平成8年9月15日
平成13年9月9日
平成16年8月3日
平成22年8月29日
平成27年8月30日
平成30年10月13日

現在の役員体制

令和5年7月20日現在（卒年順）

【顧問】	安齋 隆 (昭34)	安藤 勇夫 (昭34)
【会長】	高橋 智章 (昭41)	
【副会長】	阿部伊勢吉 (昭45)	佐藤富美夫 (昭45)
	平子 杉代 (昭49)	
【事務局長】	(兼) 佐藤富美夫 (昭45)	
【会計】	大内 正造 (昭48)	
【会計監査】	渡辺 弘次 (昭45)	
【常任幹事】	早川 ミツ (昭37)	百川 教彦 (昭50)
	山田由美子 (昭51)	
【幹事】	常住美智子 (昭42)	菅野 孝三 (昭50)
	菅野 育夫 (昭51)	穴戸 岩 (昭60)
		以上

会からのお願い

☆新会員ご紹介のお願い

本会は、入会の申し込みを常時受け付けております。同期・先輩・後輩の方に入会を希望される方がいらっしゃいましたら、本会事務所宛て、もしくは、当会役員に、氏名、卒年、住所、電話番号をお知らせ頂きたく、宜しくお願ひ致します。

なお、新会員の方は、入会年度の年会費免除と致します。

編集後記

コロナ禍により、東京まゆみ会は総会の開催を3年間見合わせました。第5類へ移行したとはいえ、コロナウイルスが死滅したわけではありません。油断禁物です。また、自然災害の発生や事件・事故などのニュースが多く報道され、心が痛む年でした。今年も会員の皆様からの「近況報告」のお便りをたくさん頂戴致しました。同窓会仲間間の情報交換の一助になれば幸いです。令和5年は、安達高校創立100周年を迎え、東京まゆみ会も設立75周年を迎えました。会員の皆様と一緒に祝いましょう。

《会報編集委員会》

平子 杉代 大内 正造
穴戸 岩 佐藤富美夫

東京まゆみ会会報 第35号

発行人 東京まゆみ会 会長 高橋 智章

〒272-0033

千葉県市川市市川南3-14-11 A313

電話・FAX 047-324-7361

印刷所 モリモト印刷株式会社

〒162-0813

東京都新宿区東五軒町3-19

電話 03-3268-6301(代)